

市民の皆さんと市長との懇談会（久保台）  
～将来のまちづくりについて～

日時	平成 28 年 6 月 11 日（土） 10 時 00 分～12 時 00 分	
場所	久保台コミュニティセンター	
出席者	市民	17 人
	市	中山市長 川村副市長 松尾総合政策部長 岡田都市環境部長 企画課：宮川課長，大貫課長補佐，関ヶ原係長，原田副主査 都市計画課：清宮課長，岡野課長補佐，廣津係長，沼崎係長
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の皆さんと市長との懇談会～将来のまちづくりについて～ 次第</li> <li>・（仮称）第 2 次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン（素案）の概要について</li> <li>・新都市計画マスタープランの策定に向けた取組について</li> <li>・常磐線佐貫駅周辺地域整備基本構想（素案）の概要について</li> <li>・アンケート用紙</li> </ul>	

【懇談会内容】

1. 開会・市長あいさつ

司会より開会のあいさつ，続いて，中山市長よりあいさつ。

2. 市からの説明

(1) 懇談会の開催趣旨について

市より開催趣旨についての説明。

(2) （仮称）第 2 次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン（素案）の概要について

(3) 新都市計画マスタープランの策定に向けた取組について

(4) 常磐線佐貫駅周辺地域整備基本構想（素案）の概要について

市より検討状況について，スライドを用いて説明。

3. 意見交換

- ・（市民）佐貫駅東口のロータリーの改修は以前にも行われたが，混雑問題は改善されていない。駅周辺には駐車場も多いままで，（周辺の土地を買収する場合）地権者の合意を得るには，時間がかかるのではないか。整備の対象範囲，手法，スケジュールなどがあれば教えてほしい。

- （市長）にぎわい創出以前の問題として，ロータリーの混雑を改善することが一つのテーマでもある。公共交通と一般車のルートが供用されており，バス運行が阻害されていることは認識している。両者の経路を分ける事になるだろう。同時ににぎわい創出も考えている。駅前には大きな建物は存在しないため，地権者の協力も得て高度利用が不可欠であると考えている。場合によっては立体駐車場も必要であると考えている。また，ファミレスや本屋などの駅前で滞留できる施設や子育て支援の機能等があることも望ましい。

- ・ (市民) 駅前の土地の課税区分は宅地なのか、原野なのか。
  - (副市長) 平成 27 年度から東口ロータリー周辺の土地の有効活用を促進する目的から、駅前の土地の課税区分を「宅地」に引き上げている。東口ロータリーは、12,000 m<sup>2</sup>あり、周囲に拡大する場合は駐車場等の地権者の合意が必要となる。長期的な取組みとなる事が予想されるが、ロータリーの一角に、公共施設が入るような商業ビルを誘致し、併せてロータリーの改修、佐貫 3 号線へ接続する道路を設ける等の検討を進めていきたい。また、民間企業にヒアリングを行い、今後交渉していく予定である。
- ・ (市民) 地震情報 (NHK) に龍ヶ崎が表示されていないのでは。市から気象庁など問い合わせる必要があるのでは。
  - (市長) 地震情報について、龍ヶ崎市だけが表示されないことはない。そう見えてしまうことに問題があると思う。行政順で龍ヶ崎は最初の方に表示される。震度 4 以上の場合は、市の HP でも表示しているので、そちらも利用してほしい。
- ・ (市民) 龍ヶ崎市が目指している佐貫駅のイメージが分かりにくい。どこの駅を参考にしているのかを知りたい。例えば柏駅のような構造を目指しているのか。
  - (市長) (柏駅のように) ペDESTリアンデッキで 2 層化することは理想的であるが、費用負担が予想される。駅舎改修では、自治体に 6~7 割程度の負担が求められることが一般的で、勝田駅の改修でもその程度の負担が求められたと聞いている。駐車場が高層化し、民間企業から駅と周辺建物をつなぐ歩道を設けたいなど、提案があれば市としても協力はできると思う。
- ・ (市民) 「(仮称) 第 2 次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン (素案)」の 8 ページで人口移動率の目標が示され、社会増が目指されているが、住む場所を選ぶ人にとっては交通の便が最大の関心事だと思う。今後 JR にどのような働き掛けをするのだろうか。快速は取手までで、佐貫駅には止まらない。混雑等の問題に対してどのような方策が考えられるか。
  - (市長) JR 水戸支社とは、連絡体制は取れている。以前から年に 1 度、市からの要望 (例: 佐貫駅のホームには曲線があるため、安全対策を行ってほしいなど) を伝える機会もある。取組の成果としては、ダイヤの増便等を要望し続けた結果、特急の本数が増えた経緯がある。今後は、羽田空港アクセスを考慮した早朝・深夜帯の増便、空白の時間帯などの増便を要望するとともに、上野東京ラインによる東京駅・品川駅への乗り入れを通勤時間帯に増便できないかと協議する予定だ。柿岡にある地磁気観測所が移転できないため、直流の快速電車は直交デッドセクションのある取手以北には運転できない。土浦まで快速を伸ばす運動も一休みしているようだ。これらは茨城県としてもマイナスになるため、県からも対応してもらえるように、働きかけていきたい。

- ・ (市民) 今後、老老家庭の課題が出てくると予想される。ケア施設の充実を将来ビジョンの中に入れてほしい。
  - (市長) 高齢者のケアについて、龍ヶ崎市は私が就任する前から施策の手厚い自治体であった。「スポーツ健幸日本一」とは、健康寿命を延ばし、健康で長生きが出来る社会づくりを目的としている。老老介護や認知症等の課題への対応は今後必要になってくる。施設は計画にのっとり、可能な限り待機者が出ないように整備を進めたい。介護施設は増やせば増やすほど、介護保険料の負担が増えるため、財政とのバランスを見ながら進めていきたい。
  
- ・ (市民) 「(仮称) 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン(素案)」の役割として「行政活動の成果を確認するためのものさし」と記載されているが、現在のふるさと龍ヶ崎戦略プランの成果の評価は行っているのか。
  - (市長) 進行管理や評価は随時行っており、不足がある場合は充足して進めてきた。これまでの取組も確実に評価した上で次期戦略プランにつなげていく。
  
- ・ (市民) 「子育て環境日本一」には子ども会・青少年の育成は含まれているのか。子ども会の参加者が減少してきており、同会の活動の必要性について学校を通して教員や親にも伝えてほしい。
  - (市長) 子ども会の問題は長期的なものであり、次期戦略プランの期間においても検討が必要であると認識している。
  - (副市長) 子ども会活動は縮小しており。スポーツ活動に特化している傾向がある。私個人が関わっている活動として、川原代小地区の子ども達を集めて、子ども部を作ろうとしている。ボランティアや、体験活動などを行う予定である。この取組を、他の13地区のコミュニティセンターに発展できないかと検討している。
  
- ・ (市民) 防災士の育成についての評価はどうなっているのか。
  - (市長) 防災士の育成についても「防災減災日本一」の中で取り組んでいく。
  
- ・ (市民) 佐貫駅西口に牛久沼までの地図が設置されたが、旧水戸街道や若柴宿が表記されていない。
  - (市長) 駅前の案内地図については確認を行う。東口には旧水戸街道や若柴宿を含んだ観光案内板を設けている。
  
- ・ (市民) 佐貫駅周辺地域整備基本構想では、1月～2月にも説明会が行われたが、その時の意見が反映されていないような気がする。例えば若柴宿地区でほたるに関する意見を述べたのだが、それはどこに反映されているのか。
  - (市長) 各地区から頂いた意見を活字で表現できていない部分もあるが、細かい施策では対応できるように検討を進めたい。先のほたるの件は、若柴宿地区の整備方針「自然環境や景観資源による若柴宿の空間を保全し、住民の豊かな暮らしを創造する整備を行う。」に反映されている。

- ・ (市民)「新都市計画マスタープラン」で、北竜台公園と蛇沼公園の間にある緑地(空地)を位置付けた方がよい。民地ではあるが、変に荒らされないように活用できないか。
  - (市長)緑地を活用した蛇沼公園までの遊歩道について検討を進めていく。緑地が伐採され、太陽光パネルが設置される等の課題も出てきている。
- ・ (市民)道の駅は地域振興施設として、市がどう位置付けるかが課題である。うなぎとトマトだけでは弱い。防災の視点が無いような気がする。周辺の市町村との連携も必要で、フルマラソンなどができる場所にしてほしい。
- (市長)道の駅は整備構想への記載はなかったが、防災拠点の視点も入れて検討している。国道6号線に接道していることから、首都圏で災害が発生した場合は茨城側から被災地へ向かう支援者・支援物資の中継拠点、茨城で災害が発生した場合は首都圏から茨城へ向かう支援者・支援物資の中継地点になるのではと考えている。
  - (市長)隣接する5市で協力し、回遊性を上げる必要もある。牛久市が協力的であり、将来的には遊歩道や自転車道を整備しようかと考えている。7月末には道の駅に関する意見交換会も開催されるため、関心があれば参加いただきたい。
- ・ (市民)「(仮称)第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン(素案)」の12ページの基本目標に「高齢者にやさしいまちづくり」を入れてほしい。運転できない高齢者がサプラ(イトーヨーカドー)でバスを待つ姿をよく見かける。コミュニティバスを1時間に1本から3本程度へ増便してほしい。
- (市長)「スポーツ健幸日本一」では健康寿命を延ばす目的も含まれている。コミュニティバスや公共交通の利便性向上について公共交通計画の更新・策定を行っている。サプラでは7/1から市役所の窓口ステーションができる。それに合わせてデマンド型の乗合タクシーも、サプラが目的地として追加される。自宅から決められた場所まで、500円で行くことができる。コミュニティバスの増便は、経費も増加することから、増便する場合の運賃形態なども検討し、全体の利便性を高めていきたい。
- ・ (市民)「障害者にも優しい町づくり」を希望します。コミュニティバスに市民活動センターのバス停がないため、次の停留所で降りて利用者が歩いてくることもあるため、市民活動センターにも停めてほしい。
- ・ (市長)バス停については一度確認する。障害者に優しい町という視点も大切である。ショートステイができる民間の施設が白羽にできた。民間の力も呼び込みながら、優しいまちづくりにつなげていきたい。
- ・ (市民)「新都市計画マスタープラン」の団体ヒアリングで、旧市街地に事務所がある団体が多い気がする。

- (市長) 団体ヒアリングについては、新都市計画マスタープランと関連がある企業を選択した経緯がある。結果として旧市街地に立地する団体も多くなったが、他地区とのバランスに配慮しながら進めていきたい。
- ・ (市民) 旧市街地はシャッターが多く、再び栄えるイメージがつかない。佐貫駅のにぎわいづくりに力点を置いたが良いと思う。
  - (市長) 旧市街地は従来の商店街を単に復活することではうまくいかない。魅力的なエリアとして再生すべきである。伝統的な祭りや文化財等を地区ごとに活かした別のにぎわいづくりが必要である。
- ・ (市民) 「(仮称) 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン(素案)」で将来ビジョンの目標人口が、80,334人から65,521人(2040年)は減り過ぎだと思う。
  - (市長) 目標と現実のバランスは難しい。「合計特殊出生率」が重要であり、この目標は自治体だけでは難しく、国と一緒に進めていく必要がある。長期的には、社会環境も大幅に変化する可能性があるため、必ずこの推計通りに推移するとは思えない。「合計特殊出生率」を上げながら、流出を防ぐ事が大切である。